みあさづくり

さらなる高みを目指して！

長野県大会3位おめでとう！

今年も８月の終わりに「長野県ジュニアコンクール大会」が行われました。毎年の事ですが、暑い中、夏休みで遊びに行きたいのをグッと堪えて練習に打ち込んでいる子供たち、本番のステージでは練習以上の息の合った演奏をしてくれました。特に今年の高校３年生のメンバーの大半は、娘と同時期に源流に入会し、私自身が入会してから一緒に頑張ってきた、言わば同志でもあります。

それぞれが太鼓に本気で向き合いながら最後のジュニアコンクールに挑む姿に本当に感銘をうけました。また、今回出場したメンバーそれぞれが自分のできる最大限の努力をする中で、賞を狙うというよりも「自分たちの演奏」をすることに重点をおいて研鑽を重ねてきました。練習中、辛いこともあったけれど、今回の３位入賞はそんなメンバーに対するご褒美だったと思っています。結果は後から付いてくる、その事を教えてもらったそんなコンクールでした。

源流美麻太鼓大人会　酒井　由起子

72

2019. 11

facebook　ホームページ美麻Wiki

太鼓ジュニアコンクール長野県大会３位入賞

子供「第２２回日本太鼓ジュニアコンクール長野県大会」が令和元年８月２５日に箕輪町文化センターで行われました。

県内の強豪チームがひしめく中、我がチームは毎年毎年敢闘賞の常連、小さなトロフィーがずらずらと並んでひたすら悔しさばかりが募る有様でした。

私的には指導を始めて１０年目の節目でもある今大会、平静を装いながらも胸の内には大きな闘志を漲らせ練習に練習を重ねて、いざ本番を迎えました。

本年度は９団体１０チームが参加する中、美麻の子供達は気合いを込め、息を合わせ魂のこもった演奏を披露してくれました。

全団体の演奏が終わり、私は何故か例年とは違い余裕のある落ち着いた気分で結果発表を待っていました。それだけ今回の演奏が私に自信を持たせてくれた最高の演奏だったのかもしれません。そして表彰式、まずは上位３チームが発表されます。

「３位は…エントリーNo.８番…源流美麻太鼓の皆さんです！」

周りの団体の皆さんが歓声を上げて拍手を送ってくださる中、不慣れな我々はしばらく何が起こっているのかわからず放心状態。

入賞に気付いた時には全員が涙を流し興奮して喜びを分かち合いました。

そして、いつもの小さなトロフィーではない少しだけ立派なトロフィーと３位入賞の表彰状をいただく事ができました。

当日はＯＢや地域の方々が大勢応援に駆けつけて下さり我々にとって大変大きな励みとなりました。

ただ、優勝しなければ全国大会へは進めません。遅ればせながら一歩前へ踏み出す事が出来ましたがここからが正念場、益々練習に打ち込んでさらなる高みを目指してまいります。どうぞ皆様のお力をお貸し下さい。

今後とも応援いただきますよう、よろしくお願い致します。（源流美麻太鼓会長　保科充志）

初めてのジュニアコンクール

初めてのジュニアコンクールに出ることが決まった時は嬉しくて「頑張らなきゃ」と思いました。練習が始まると課題曲で演奏する楽器が色々と変わったので、慣れるのに時間がかかりました。担当楽器が竹と決まった時、曲全体のリズムを作るのでとても緊張しました。そして今回の課題曲はテンポが速くなるので、タイミングをつかむのが大変でしたが竹と宮の相性はよく、お祭りのようなテンポで楽しかったです。

自由曲では、強弱や動きのアレンジが沢山あり少しずつできるようになりました。当日のステージでは、自分のテンポが安定してとれるか心配でしたが、一生懸命演奏しました。そして、３位入賞と呼ばれたとき驚きと嬉しさでいっぱいでした。初舞台でしたが練習の成果も出て自信にもつながり、来年のコンクールも頑張りたいと思います。（森田　真斗）

太鼓と出会い早３０余年

村政百周年記念を祝い発足した源流美麻太鼓。息子の「太鼓を打ってみたい」が言い出しっぺ、練習の送迎をするならば往復するのも無駄な時間と考え、それならば「自分もやってみるか」。そんなことから初代打ち手になりました。太鼓も揃い、曲もできいざ打ち込み、うるさい音が響くだけですがなんとか式典には演奏をすることができました。最初の練習場所は除雪基地でした、冬期間は雪の降る中シャッターを揺るがせるほどの迫力のある練習も今は懐かしく思いだされるところです。祭ｉｎ大町北安曇で十年にわたる演奏活動や舞台製作、長野五輪では韓国への演奏外遊、メンドシーノ交流会では太鼓の製作と現地での演奏と貴重な体験をさせて頂きました。また、三代目会長としてもお世話になりました。現在は源流美麻太鼓顧問・長野県太鼓連盟常任理事・北アルプス奉納太鼓実行委員会副委員長を仰せつかっております。今年は30年太鼓に携わった中で大変おめでたい事がありました、「長野県ジュニアコンクール大会」において過去20年余りトライをしてきました源流美麻太鼓が、令和元年度の大会において念願であった「3位」入賞をすることができました。太鼓を愛し愛情を注ぎ、打ち手が打ち手を呼び寄せ次世代への足掛かりになればと思います。近隣の太鼓チームの皆さん、県連チームの皆さん、県外のお知り合いチームの皆さん、そして美麻地区の皆さん今後もご支援をよろしくお願いいたします。（源流美麻太鼓　3代目会長　合津　富吉）

源流美麻太鼓の３０年

昭和から平成へと年号が変わり、誰もが新しい年の始まりに心を引き締めバブル時代に希望を託し、美麻の記念事業として大人から子供まで参加できる太鼓が浮上し、九胴を買ってもらいました。まず打ち手を集い大人と子供で15人ほどが集まり、名称を話し合い金熊川、土尻川、姫川、高瀬川、犀川の源は美麻であることから「源流美麻太鼓」と命名し希望と期待をもって始動しました。作曲を東京の「星野進」先生がされ、月に2～3回指導にこられオーケストラ調の静かな曲ですが、打ち手はみんな手に豆を作りながら頑張りました。練習は保育園の遊戯室をお借りし週2回行って自分のポジションを確保したものです。診療所の季先生が国へ帰り、身体の具合が良くないと聞き、長年美麻の住民の健康を守ってくださった先生にみんなでお見舞いと感謝を兼ねて韓国へ美麻踊り連と共に親善交流に行ってきたこともありました。長野オリンピックに全県あげて歓迎ムードに包まれ各地でイベントが開かれ美麻の太鼓も出演し本番に強い自信をつけ、雨の中や雪の中でもオリンピックを盛り上げました。その後、大北でも動きがあり、大北太鼓連の結成は「祭ｉｎ大町北安曇」の始まりでした。松川響岳太鼓の強スピードリズムに大北の太鼓は一本化されつつあり、松川の平林さんが熱心に美麻へご指導いただき、子供たちのマスターは早いもので大北一体となった太鼓の舞台参加ができるようになり、いくつかの演目をこなすようになりました。会長も3代目合津富吉さんから4代目保科充志さんとなり太鼓と共に発展して今ではどこにも負けない組織となりました。今年の「長野県ジュニアコンクール大会」で3位となったのは長年の努力と、一番は保護者の熱意があったからだと思います。限りない発展と飛躍を祈念し源流美麻太鼓に心より感謝を申し上げます。　合津さん、保科さんここまで導き仕上げてくれて有難う。

追伸：地域の祭りなどのアトラクションなどで皆さんのご支援、声援に育てられたことは言うまでもありません。父となり母となった打ち手の皆さんに会うのが楽しみです。（源流美麻太鼓2代目会長　小林　勝則）

太鼓　ありがとう

「第3位、源流美麻太鼓！」長野県ジュニアコンクールの会場である、箕輪町文化センターに司会者の声が響く。「え？・・・」ビデオ撮らなきゃ、写真も・・・その時一番動揺をしたのは、自分だったかもしれません。うちの娘たちが、源流のメンバーに加えて頂き12年。小学校１年から続けている下の娘も高校3年、今年で退会です。その娘が賞状を受けにステージへ上がって行く、心から太鼓を続けさせて良かったと思った瞬間でもありました。もちろん、コンクールだけが太鼓ではありません、年間30回を越えるステージに呼んでいただき、大勢のお客さんの前で演奏をさせて頂いています。そのための練習、そこから生まれる協調性、リズム感と体力や筋力も強くなります。うちの娘達に限らず太鼓に関わった子ども達は、他の子ども達とは少し違う成長があります。ステージでの演奏が終わり、上気した子ども達の顔にほっとした表情が浮かぶのを見るのが好きでした。娘達が太鼓を続けてくれたおかげで、親としても楽しませていただきました。ありがとう。（源流美麻太鼓事務局　小林　敏文）

れたことです。子供が生まれてからは子供を家族に任せてまで太鼓を続けるべきか、かなり悩みましたがあの時辞めずに続けてきてよかったと感じた瞬間でした。また、美麻の梨嶺へ慰問訪問した際、お年寄りの方が涙を流して太鼓の演奏を喜んでくださいました。美麻で長年頑張ってこられた方への恩返しが少しできたようでとても嬉しかったです。これからも、太鼓を通じて一人でも多くの方に笑顔や元気を届けられるように頑張っていきたいと思います。
（源流美麻太鼓大人会　松下　愛）

打ち手として

私は今回のコンクールを通じて、改めて私たち打ち手は沢山の人に支えられていると感じました。12年間、私を練習や演奏のたびに送迎をしてくれた父母、差し入れやお弁当の手配など細かいところまで気を使ってくれた保護者会の皆さん、どんな時でも応援をして元気をくれる美麻地域の皆さん、コンクールの為に帰ってきてくれて笑顔にしてくれたり私を精神的に支えてくれたＯＧやＯＢ。打ち手として、一緒に先頭に立ってくれた同級生、わからないところはちゃんと聞いてくれる後輩たち、相談に乗ってくれた大人の打ち手の皆さん、コンクールで共に戦ったライバルチームの皆さん、指導者として私たちの気持ちを一番に考えてくれた保科さん。そんな皆さんに支えられて挑んだコンクールはとても楽しむことができましたし、初めての入賞はとても幸せでした。私は改めて皆さんに感謝を伝えたいです、打ち手だけでは到底かなわなかった夢を皆さんが叶えてくれました。私は太鼓が大好きです。10年後、20年後も源流美麻太鼓の応援をよろしくお願いします。
（小林　奎）

太鼓で恩返し

源流美麻太鼓のステージに一目ぼれして太鼓を始めました。その時は、こんなにもたくさんのものを自分にもたらしてくれるとは想像もしていませんでした。私にとって太鼓をやっていて心から良かったと思ったことは、我が子が太鼓のステージを見て「ママの太鼓かっこよかったよ！自分も太鼓やりたい」と言ってく

これからも応援します

源流美麻太鼓の演奏を見た息子が「僕もやりたい！！」と言ったことがきっかけで、小学校1年から太鼓を始めました。最初はなかなか上手く打つことができなかったり、曲を覚えるのも一苦労・・・時折、弱音を吐くこともしばしば・・・しかし、先輩方がかっこよく太鼓を打っているように僕もなりたいと言う気持ちで頑張って練習している姿がありました。小学校2年の時には、今年の目当て「太鼓でひりゅうさんだんがえしとジャパンを練習してみんなの前で打ちたい。ほしなさんの言うことをききます」という内容の目当てを学校で書きました。太鼓に対する気持ちが表れていて驚き反面、文章で頑張ろうという姿勢が伝わり嬉しかったです。太鼓を通して努力することや色々なことを学ばせていただいているんだなと感じています。そして今年は「長野県ジュニアコンクール大会」に初めて出させていただくことができました。まだまだ、先輩方のように上手く打つことはできませんが、努力することや一生懸命にみんなと太鼓を打つことで自信につながったかなと思います。これも保科会長をはじめ先輩方や保護者の方、地域の方がおられてのことです。ありがとうございます、これからもよろしくお願いします。息子よ、「太鼓をやりたい！」と思った初めの気持ちを忘れずにこれからも頑張ってね。
（保護者
　早川　安希子 ）

源流美麻太鼓は新メンバーを募集しております

和太鼓は音楽でもありスポーツでもあります。
練習や演奏活動を通じて身体を鍛え協調性を養い感性豊かな心を育みます。共に汗を流し、地域の皆様に元気と勇気を与える次代の担い手になりませんか？老若男女問いません！

■ 練習場所:美麻支所講堂
■ 練習日時:毎週水曜日、19:00～20:30まで
■ 主な活動内容:市内外のイベントや祭での演奏活動、日本太鼓ジュニアコンクールへの参加、メンドシーノ訪問団和太鼓交流の指導。どうぞお気軽に見学にお越し下さい。
■ 詳しくは源流美麻太鼓会長、保科 a-hossy@miasa.ne.jp までお問い合わせ下さい。

日向地区神楽の復活

あるとき日向のおじいちゃんが３０年前に神楽を復活させたビデオを見せてくれました。その中で祖父が映っていて自分もやりたいと思いました。人口減少や地震などの影響もあり、地域に元気がなくなり、最近はお祭りさえもできなくなっていました。そのことをさみしく感じ、秋葉様で神楽を復活させたいとみんなに話したところ、快く協力してくれました。今回の「小さな成功」をこの場をお借りして感謝したいと思います。

日向組神楽のメンバー、松下先生、協力していただいた地区の方々どうもありがとうございました。

お祭りが、住んでいる人、以前住んでいて通っている人、学生、美麻に仕事で来てる人などが集まる小さなきっかけになっていけばと思います。人口減少だからこそ、それぞれの距離感を大切にしながら、顔が見える地区になっていけば嬉しいです。

（北沢和也）

少し前にテレビ番組で「現代人（特に子供）は、AIに支配される危機感を持っている」と話していました。

そんな時代になぜ３０年？６０年？ぶりに地区の神楽を復活させたのか？はよくわかりませんが（笑）、まずは自分の地区のことから書きたいと思います。

私は青具の塩ノ川に家があります。普段は住んでないお家も、道普請や秋葉様にはみんなが集まってくる。それが地区の小さな誇りだと今になってわかりました。昔から３地区合同（米山・日向・塩の川）で行われているこの秋葉様というお祭りが神楽復活のきっかけです。

親子で焼き芋

みあさ保育園でパンダクラブの親子と焼き芋を行いました。自分たちで掘ったお芋もあり、たくさんのお芋をみんなで包みました。初めての子もいましたが、一生懸命楽しく包んでいました。たき火にお芋を入れる時は「あついよ」となかなか近くに行けない子もいましたが、「美味しく焼けますように」と言う子もいました。焼きたてのお芋を食べている子ども達はとても幸せそうな顔でした。残りのお芋はおやつにもいただきました。

美麻地区文化祭開催

ぽかぽかランド美遊を会場に、１０月１９日・２０日の２日間、美麻地区文化祭を開催しました。１９日は雨天のため出足は芳しくありませんでしたが、２０日は雨の影響もさほどなく、２日間通算で300人を超え、出店販売も賑わっていました。

展示会場には、保育園児からお年寄りまで地域内外から５００点を超える作品をお寄せいただき、今年も「ふるさと美麻会」の皆様からの出品もあり、役員の皆様が前日から準備してくださった会場は飾る場所に悩むほど、一杯となりました。１９日の午後は「子育てセミナー」で親子工作教室を開催し、３４名の参加をいただき、竹トンボとゴム動力船を作成し、完成後は親子で遊んでもらいました。

２０日の午前中は開会式とステージ発表を行い、保育園児の遊戯、育てる会の太鼓演奏や踊り、源流美麻太鼓の演奏などがありました。毎年行っていただいている、美麻小中学校７・８・９年生による「美麻市民科」の成果発表もあり、

年々、発表内容やプレゼン能力が向上していると感じました。

午後は、恒例の「オオマチみあさテレビ」の公開収録もあり、参加していただいた皆様には、1日を通して、十分に堪能いただけたのではないでしょうか。＜美麻公民館＞

地域の方々、お客様　各位

私たちは昨年度の９年生から「花MAME株式会社」を引き継ぎました。先日行われた地区文化祭では、「みあさのみ」や「花豆ようかん」などたくさんの商品を販売しました。このような形で販売活動ができたのは、花豆を育てていただいた皆様や、共に商品を開発していただいた方々、アドバイスをいただいた前川さんはじめ、地域の方々のおかげです。ありがとうございました。また、商品を買っていただいた皆様、本当にありがとうございました。引き継いでから初の販売で心配していましたが、買う際に一言声をかけていただいた方もいて、勇気をいただきました。また、当日の売り上げは総額で２０万円を超え、収支では少しではありますが黒字になりました。1日がんばってとても疲れましたが、成果があがった喜びも同時に感じることができました。

このお金については、花豆について広げていくための、販売促進に活かしていこうと考えています。まだまだ始まったばかりです。会計の計算や接客の対応でもうまくいかず、不安なこともたくさんあります。けれど地域の方の支えを実感することができたので、今の高校１年生の思いを受け継ぎ、これからも会社の目的である、地域活性化を目指してやっていきたいと思います。

（花MAME株式会社　社長　菊本ナツミ）

「親子で工作」に参加しました！

10月19日に美麻地区文化祭で開催された「親子で工作！工作した後はおこひるがあるよ！」に参加しました。参加者は保育園児から小中学生の子ども13名と保護者・役員など合わせて合計18名、講師は大町エネルギー博物館の山下館長です。ゴム動力船班と竹とんぼ班に分かれてそれぞれご指導いただきました。

竹とんぼは簡単な構造ですが、羽の部分の削り方ひとつで回転や飛行時間が違ってきます。仕上げに電子レンジで少し過熱するのがミソで、作ったものがうまく飛ぶとみな喜んでいました。

ゴム動力船は参加者が少なめでしたが、親子で簡易プールを囲み、浮力とゴムの力で水上を船が走ると「やったー」と歓声が上がりました。

楽しい工作の後には、お楽しみのおこひる！焼きおにぎりを美味しくいただいてセミナーは終了。

日頃親子で工作に取り組む機会は少ないと思いますので、貴重な時間になったのではないでしょうか。

皆様、ご協力ありがとうございました。

（美麻地区地域子育てセミナー運営委員長　倉品秀也）

美麻市民科まとめの会

地域の方とのかかわりながらテーマについて探求していく美麻市民科のまとめの会を１０月２８日（月）の５・６時間目、学校のランチルームで行いました。

７.８.９年生が学んだことをポスターセッションします。聞き手は、５年生以上そして、ボランティアや視察に来られた皆さん。今日は岩手、松本市、教育事務所の皆さん合わせて２０人ぐらいの見学者がありました。このポスターセッションは、ただの発表よりコミュニケーションを取った方がいいと数年前からアドバイスさせて頂き、昨年から採用されました。上級生のアドバイスは的確だし、下級生の質問は新たな気づきだし、最後に行う子どもたちの感想意見がとても素晴らしい気づきをしているのがわります。

学年の違いを超えて、学びあう、互いの探究活動を対話で共有しあう姿に大変驚いた。

地域の大人との関係が、垣間見える習慣がたくさんありました。

どんな質問にも即座に答えられ、知識はもちろん、自分の考えがしっかりし、周りの大人にも本気・対等に話せる（大人が思わず本気になる）。

北は北海道、南は九州鹿児島　１３７名の先生が参観

～全国へき地教育研究大会・発表校に～

今年度、長野県が３１年ぶりに会場県となり、県下１０校の発表校の１つとして、１０月１１日（金）に美麻小中学校で授業参観や研究協議会がおこなわれました。１～９年のすべてのクラスで授業や生活科・総合の時間の公開、そして本校で大切にしている歌声づくりや梨の木祭でも披露した「We are the world」の全校合唱を見ていただきました。学年ごとの学びのよさ、厚いご支援をいただいている地域連携の充実ぶり、また子どもたちが進めることで質も高まる合唱と、全国各地の先生方からたくさんの称賛や自身の学校でも実践してみたいとの声をいただきました。改めて本校の教育の方向性の確かさと充実ぶりを感じさせられた全国研究大会となりました。（記事作成者：髙山俊彦）

「SWITCH」

「SWITCH」。新生美麻バドミントン部の部活動目標です。行動に対する切り替え、ゲーム中の切り替えなど様々な意味を一つの言葉に集約しました。
「SWITCH　ON！」という円陣のかけ声から、11月9日、中南信地区合同の新人戦が行われました。9年生が引退をしてから7･8年生だけの部活動となり、部員数は総勢9人となりました。冬期日課に切り替わってからは練習時間が短くなり、加えて自治会選挙などの準備が重なって思うように練習ができない期間がありましたが、それでも目標を見失わず、ここまでがんばってこれたと思います。結果としては次の日に行われたベスト８戦に進むことはできませんでしたが、結果よりも大切な「楽しさ」を見つけることができた大会でした。応援に来場していただいた先生方、地域の方々、保護者の皆様、ありがとうございました。これからも美麻小中学校バドミントン部をよろしくお願いします。

初めての大会

新人戦軟式野球中信大会そして…

台風が去った１０月１３日（日）、筑北村やすらぎ広場野球場にて新人戦、中信大会が行われました。今大会からチーム数減少により郡大会がなくなり、北信地区のように中信地区全体によるシード権なしのトーナメントとなりました。大北地区でも中学生の軟式野球人口の減少により、第一中、仁科台中との合同チームとなり、部員数もギリギリの状態です。そのような中、内野手のうち、セカンド・サード・ショートを美麻小中学校のユニホームが占め、終盤には９人中４人がミアサになりました。大会では春季全日本大会全国大会出場チームを相手に最後まで諦めない戦いを行うことができました。

今後も冬の練習をがんばりますので、応援をよろしくお願いします。

心配です

樹齢800年とも言われる美麻のシンボル『静の桜』（長野県指定天然記念物）の枝が１０月に大きく折れてしまったとのこと。痛々しい姿でとても心配です。

東京見学を振り返って

　私たち５・６年生は１１月１日に東京見学に行ってきました。早朝５：３０に出発し、夕方６：３０解散でした。美麻と東京では気温差２０度くらいのところを往復でした。国会議事堂のことをいっぱい知れました。国立科学博物館でも360°シアターで見るだけでなく、感じて学べました。そして、リーダーとしてみんなを引っ張り「ここに来て！」とか「もうすぐだよ！」って呼びかけられてよかったです。そして、時間配分をしっかりして予定通りには行けなかったけど、場合に応じて行動し、集合時間に間に合ってよかったです。東京タワーでは外国人と話すときに友達を手助けできてよかったです。また、自分から積極的に行って「みんな、話しかけるよ。」と呼びかけられました。

　６年生としてのリーダーシップを発揮し、今回の東京見学でリーダーの経験を活かし、ステップ期リーダーに向けて頑張りたいです。

6年　黄　愛娳

ふるさと美麻会総会に参加

　ふるさと美麻会の第28回の総会が１１月９日東京で行われました。美麻地区からは８名が参加し、地域の近況報告を行いました。

　今年は美麻から花豆アイスをお土産にお持ちし、皆さんに喜んで食べていただきました。

ふるさと美麻会とは

　ふるさと美麻会は、美麻村村制施行百周年記念事業の一環として、首都圏在住の村出身者とふるさと美麻村との結びつきを強め親睦と発展につなげることを目的に平成元年7月9に設立されました。今年で30周年を迎えます。

　当時の様子は広報みあさでも紹介されています。

広報 みあさ
ふるさと美麻会設立する

記事は美麻Wikiで電子版をご覧いただけます。 https://00m.in/Azkn

年末交通安全運動が行われます

　今年も12月1日から12月31日まで「年末交通安全運動」が実施されます。

　何かと忙しい年末です、安全運転と凍結に注意をして運転をしましょう。

道の駅活性化と「小さな拠点」づくりの説明会を開催

３０代から７０代まで、３０名以上のご参加をいただき、道の駅活性化と「小さな拠点」づくりについての説明会を１０月３１日に開催しました。

来場者を対象としたアンケート結果では、「住民の間に将来への希望が薄れ、集落を維持できるのだろうかという不安が広がっている」という設問への回答が７５％と最も多く将来への関心の高さを伺うことができました。

意見交換では、
「地域の人口を増やす取り組みを」
「若者が関心の持てる活動にすることが必要」
「地域の仕事づくりが必要だ」
「誰もが活動に参加できる仕組みづくりを」
「交流人口を増やす取り組みを」
「新たな道の駅の活用を模索する時期」
「子どもたちからも意見を聞いてほしい」
等々、多様な意見をお聞きできました。

会の終わりには、参加された方より「合併して１３年、地域の将来をみんなで話し合うことができた。この取り組みを応援しなければいけない。」と活動へのエールを送っていただきました。今後は地域へ出向いての説明・意見交換会の開催や、提案いただいたテーマを絞っての意見交換会も実施していきます。

イベントのお知らせ

はじめまして！　二重湯ノ海の「美麻オリザファーム」です。私たちは美麻地区の麻の歴史と相互扶助の仕組みを調べています。その研究報告会を１２月８日（日）午後３時から美麻公民館で行うので、ぜひ遊びに来てください！

「麻」に関するどんな情報でもかまいません。お話してくださいませんか？

「麻」に関する道具をお持ちではありませんか？不要であればぜひ私たちで保存させてください。

この研究会の最も大切にしているのは、この報告会に来て頂いた地域の皆様との「対話」です。麻の事を知る人と知らない人の間で、新しい化学反応が起きることを期待しています。地域では知っているようで知らない地域資源＝「宝物」がたくさんあります。それを探すための鏡のような報告会にしていきたいです。

連絡先：美麻オリザファーム
「結と家研究会」（主宰：東京大学大学院工学系研究科）美麻事務局　稲澤そし恵（元・地域おこし協力隊）大町市美麻11044　090-1607-6813

■　編集・発行　　**美麻地域づくり会議**
住所　大町市美麻11810-イ　　電話29-2311　FAX29-2333　・　電子メール　info@miasa.info